

病防第54号

令和2年2月13日

各関係機関の長 様  
(農政担当)

岐阜県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したもので、指導上の参考にしてください。

## 令和元年度病虫害発生予察特殊報 第1号

令和2年2月13日

岐 阜 県

1 病虫害名 ネギハモグリバエ別系統 (*Liriomyza chinensis* Kato)

2 作物名 ネギ

### 3 発生経過

令和元年9月に県内岐阜地域のネギほ場において、従来のネギハモグリバエによる被害様相とは異なり、ネギ葉全体が著しく白化する被害を確認した。その被害症状は、他県で発生が確認されている別系統と類似する症状であった。

採取した幼虫から羽化させた成虫は、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門において従来の遺伝子型(以下、「A系統」と略記)とは異なる別系統(以下、「B系統」と略記)のネギハモグリバエと同定された。

B系統の発生に関する特殊報は、平成31年3月に京都府から発表され、以降、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県、大阪府、愛知県、東京都、佐賀県から発表されている。

### 4 形態および生態

#### (1) 形態

成虫の体長は約2mmで、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である(図1)。幼虫はうじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する(図2)。蛹は体長約3mmの褐色で俵状である。

なお、ネギハモグリバエA系統及びB系統の形態による識別は困難である。

#### (2) 生態

両系統とも、成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から出て、地表又は土中で蛹となる。

### (3) 被害

初期の食害痕は、A系統と同様で不規則な白線状だが、B系統は食害が進むにつれ近接した食害痕同士が癒合する（図3）。その後、さらに葉先端を中心に表皮が浮いて白化したようになる（図4）。

## 5 防除対策

- (1) ネギハモグリバエの系統に関わらず、発生を確認したら発生初期にネギハモグリバエ（ハモグリバエ類）に適用のある殺虫剤で防除する。
- (2) 被害葉及び収穫残渣は、本種の発生源となるため、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋めるなど適切に処分する。



図1 ネギハモグリバエ成虫



図2 ネギハモグリバエ幼虫



図3 ネギ葉の被害



図4 ネギの被害株